

調査活動から見えるもの

◆ 調査部 ◆

調査部長

村川直樹



新学習指導要領の充実期を迎えた今年度、文科省は第二期教育基本計画を公表した。山口県教育委員会も新たな教育目標のもと諸施策を示し、展開されつつある。

このような中、各学校では課題の解決に向けて、教職員の力量を高め、地域の資源を生かした特色と活力のある教育の推進に取り組んできた。

調査部では、校長として未来を指向した学校づくりに向けて、学校運営上の諸課題の解明に役立てることを目的として、「調査処理委員会」と「経営管理委員会」の二つの委員会を構成し調査活動を行い、その結果を「教育調査資料」としてまとめた。

市町教育費については、全市町の予算総額は昨年度と同等であったが、児童一人あたりの予算額で見ると、最も多い市町と最も少ない市町の格差が十二倍に広がっている。特色的な内容としては、半数以上の市町で様々な支援員に係る経費が増額されたことがあげられる。

次年度の学級編制や教職員数については、児童数の減少によって双方ともここ数年で最も大きく減少することが予想されている。

教職員の組織については、本務者のみの県費負担教職員数が昨年度より百五名増加している。また、その年齢構成は四十歳から五十五歳が全体の約六割を占めており、大量退職・大量昇任・大量採用に対応すべく各キャリアステージに応じた人材育成が求められている。

学校経営に対する校長の意識については、重要と考える課題として「特別な配慮が必要な児童を支援する校内体制」が新たに二位に入った。校長が、児童一人一人を大切にした教育の推進のために、組織的な取組を強く意識していることがわかる。本調査にご協力いただいた市町教育委員会や関係各位に心から感謝を申し上げます。

各 専 門 部 か ら の 報 告

「つながり力」の発信

◆ 広報部 ◆

広報部長

森脇経行



広報部は、「子どもたちが志をもち、未来に向かってともにたくましく生き抜く実現力を育成する」という根幹を揺るぎないものとして捉え、学校教育の現状と課題を正しく把握し、「つながり力」を向上させ、信頼される学校づくりを目指す。」という藤田会長の提言の具現化を図るために、「会報」編集委員会と「歩み」編集委員会の二つの委員会を組織し、次の五つの努力点を掲げ、広報紙「会報」と機関誌「歩み」の編集・発行に取り組んだ。

一 会員に親しまれ役に立つ「会報」「歩み」にするための工夫
二 各支部の創意ある教育活動や『志』を育む学校運営の紹介
三 本会の活動方針の浸透と、活動内容の周知及び情報報告・速報活動の充実
四 本会HPの周知と活用
五 全連小広報活動への協力・連携

二六四号（二六六号）と「歩み」（第五六号）を発行できたことは、両編集委員の熱意と連携（つながり）、そして、会員各位や各方面の方々の温かいご協力の賜物であると感謝している。

また、両編集委員長が素晴らしいリーダーシップを発揮し、「つながり力」を最大限に活かされたことが、「会報」「歩み」の発行に結びついたものと思う。

全連小広報部は、四つの委員会が役割を分担し、創意ある学校経営に資するため、積極的な広報活動を行うとともに、小学校教育振興のための世論の喚起を目指して、「教育研究シリーズ」や「小学校時報」、「全国特色ある研究便覧」等を発行している。お忙しい中、これらの活動に協力いただいた皆様に、改めて心よりお礼を申し上げます。今後、会員の皆様方に生きて働く、そして、会員相互の「つながり力」の向上に寄与できる、広報紙・機関誌となるよう内容の充実に努めていきたい。